

事業名 岡山市京山地区ESDプロジェクト

団体名 岡山市京山地区ESD推進協議会



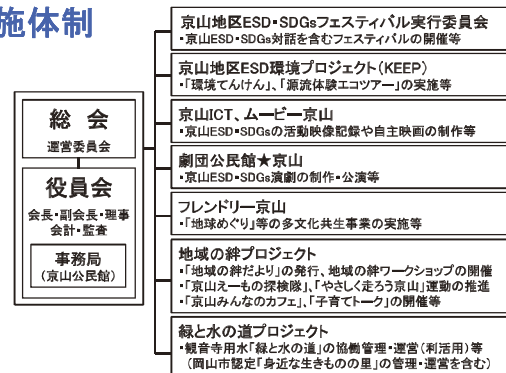
地域の特徴・課題

文教地区で教育環境が良い。津島遺跡や池田動物園等、名所や旧跡が数多くある。岡山駅から近く、医療機関等も充実していて暮らしやすい。大学生等の学生や単身赴任者等が多いため、ゴミ捨てのルール不遵守、自転車交通や歩行のマナー低下等が課題。流動人口が多いため、コミュニティの継続性や伝統文化の継承等が課題。在住外国人が多いことから、宗教や言語、文化や風習の違いといった多文化共生が課題。

事業の目標

(1)子どもも大人も共に学び合い、社会的課題に協働して取り組む地域にする。(2)地域の絆を強め、伝統文化を伝承し、人と自然が共生する地域にする。(3)言葉や文化の壁を越えて、同じ地域に住む外国人と共生する地域にする。(4)障害者や高齢者も誰もが安心して暮らせる、安全で安心な住み良い地域にする。(5)学んだことを活かせる場をつくることで、学びから持続発展し続ける地域にする。

実施体制



実施方法

子どもの視点を重視しながら、子どもから高齢者までの全世代合同・学社連携による地域の環境点検、エコツアール、ワークショップ、映画や劇づくりを通したESD活動、ESDによる自然と人が共生するまちづくり、ESDやSDGs等の基礎講座とESD・SDGs検定、京山ESD・SDGs対話を含むESDフェスティバルに地域全体で取り組み、地域教育力の向上や地域コミュニティの絆を深める活動等を通してESD・SDGsを推進する。地域の絆プロジェクトや緑と水の道プロジェクト等のESDから持続可能な社会への変革を具現化するプロジェクトを拡充する。



環境てんけんの様子 ワークショップの様子

今後の展望

①京山地区から生まれた『(E)えーものを(S)子孫の(D)代まで』を合言葉に、全員参加型の生涯学習社会を目指して、地域の風土を活かしつつ、より良いふるさとづくりに、子どもからお年寄りまでみんなで取り組み、地域の持続性をより高めていきたい。②これまで京山地区で独自に設定して取り組んできた5つ将来目標と、SDGsの目標とのすり合わせを進め、融合化させて2030年に向けた持続可能な社会づくりへの取り組みを促進させたい。③海外のCLC(コミュニティ学習センター)との姉妹関係をアジアならびにアフリカ等に拡大したい。④ESDツーリズムの対象区域を京山地区全域のみならず、岡山地域ならびに旭川流域・児島湖流域に拡大したい。⑤ESDツーリズムの事業化等を進めることで、自立して持続発展し続けられる地域としての仕組みを強化していきたい。

成功の鍵

1. 地域総働型の仕組みづくり
2. 目指す地域像(目標)の確立
3. 取り組みの可視化

問合せ先

住所: 岡山市北区伊島町2-9-38
E-mail: kyoyama_k@city.okayama.lg.jp
電話番号: 086-253-8302

事業名 地域で魅力的に生きる大人と
将来を模索する若者の交流事業

団体名 特定非営利活動法人だっぴ

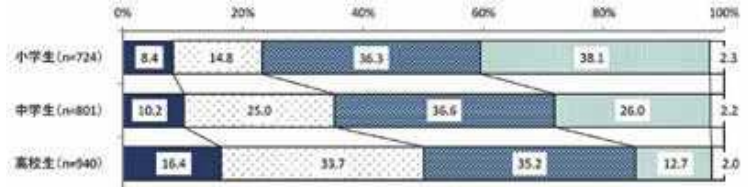


地域の特徴・課題

岡山県内の中高生も、日本全国の傾向と同様に自己肯定感が低い状態にある。発達段階が上がるにつれて「自信をもってやれることがない」と回答する層が増えている(右図)。また、キャリア教育的観点から、中高生が広い視野をもてるような社会関係資本を十分に持っている状況にはない。中高生が様々な大人に出会うなど、「多様な学び」にアクセスできる環境は意図的に整備していく必要がある。

Q.自信をもってやれることがない

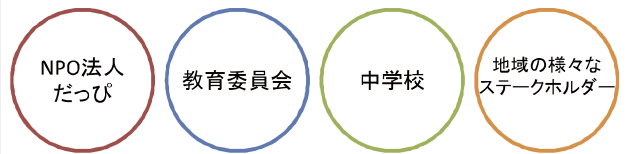
出典：岡山県男女共同参画青少年課『青少年の意識等に関する調査(平成27年度)』



事業の目標

- ✓ 中学生が自分を表現することを通して、共感・応援してくれる人がいることを知り、**自分に対する自信をもつ**
- ✓ 対等な立場で大人の考えや生き方を知ること、大人に対するイメージ(固定観念)を更新・再構成し、**大人との信頼関係を築く**
- ✓ 色んな価値観があつてよいこと、またそれに応じた**色んな生き方の選択肢があることを知る**
- ✓ 人と関わることの面白さ・楽しさを知ること、**人とつながる・関わる力を身につけていく**

実施体制



実施方法

中学生・大学生・おとなが輪になって座り、
いろんなトークテーマに沿って対話していきます。



①トークテーマの
答えを書く



②一斉にオープン！
班ごとに話合います

- だっぴのルール
- フラットな場
 - 認め合うこと



お互いの違いから、発見や学びが生まれます。
何か正解を決めるわけではなく、お互いが本音で対話することで、
多様な価値観にふれる場です。

今後の展望

岡山県内のどこに生まれても、多様な生き方に出会い、未来を選択できることで、自分の人生を切り拓いていける若者を育てられる地域を実現する。

各地域での多世代交流の継続

中学生だっぴのノウハウを移転していくことで、その地域で継続していく仕組みをつくる

各地域での多様な学びの創造

中高生が社会の中で自分の学びを探究していける「個別最適化された学び」の機会をつくっていく



成功の鍵

■ **こだわり、委ねる。**
様々なステークホルダーと協働しながら事業を進展させていくうえで、「自分たちが何を大切にしたいか」を決めることが大切。協働者・参加者が多様になるので、こだわるポイントと委ねるポイントを切り分けることで、その地域に寄り添いながら、ステークホルダーの関わりしろをつくることを目指す。

問合せ先

住所：岡山県岡山市北区表町1丁目4-64
上之町ビル3階301
E-mail: dappi@dappi-okayama.com
電話番号：086206-1250

子どもたちがつなぐ矢掛の未来のまちづくり

13



一般社団法人やかげ小中高こども連合 YKG60

成功の鍵：異年齢集団 放牧 新しい価値の創造

地域の特徴・課題

矢掛町は、岡山県南西部の中山間地域に位置し、高梁川の支流小田川の流域に開けた人口1万4千人の町で、江戸時代山陽道の宿場町として栄えた歴史と文化の町である。やかげ小中高こども連合では矢掛町・町内小中高校と協働し「自然遊びDAY」等を開催し、環境学習に取り組んできた。2015年から中山間部活性化イベント「雲の上カフェ」を継続的に開催している。

事業の目標

年代を越えて子どもたちが主体的に活動し、地域社会になじみ、地域を支える社会人となるように育成するとともに、中山間地域の地域おこし地域創生における若者の役割を自覚させ、地域の発展・充実・振興に資する。

実施体制

全体人数：60人（おとな：12人 小学生：11人、中学生：12人 その他（高校生・大学生等）25人）

こどもYKG会議（企画・運営・総括 PDCA） おとなYKG会議（サポート）

実施方法

地域の中で異年齢のこども同士の「連携」と「出番」のある活動を。ルールは『放牧』（・おとなはルールを引かない・おとなは口を出さない・こどもは「やりたい！」を大切に）。活動を通してこどもたち持っている潜在能力を引き出し湧き出させることで、自律性の向上、能力の発揮、意思決定力を育成する。[エンパワメント]

2018年7月西日本豪雨。協働する矢掛高校では5人に1人が被災した。9月から放課後に被災した高校生を中心に、こどもたちが自由に集える空間【みんきち】を開設し支援員を配置して学習・生活支援センターとして活動している。



がんばろう中川



みんきちハウス



小田川決壊箇所を案内する「語り部」

今後の展望

西日本豪雨で小田川流域は甚大な被害を受けた。被災したときにできた心のストレスは、そのままにすると埋まっていくが消えることはない。ある時突然出てきたりする。起こったことをちゃんと受け止め、安心して前を向けるような場を作っておきたい。



問い合わせ先
 (一社)やかげ小中高こども連合 事務局
 kawakami_kou1@yahoo.co.jp
 岡山県小田郡矢掛町矢掛 2543-1
 tel 090-9508-7728

事業名 国際塾・高校生懸賞論文
ESDカフェURA・グローバルゼミ

団体名 NPO法人 こくさいこどもフォーラム岡山



地域の特徴・課題

岡山県内の中高校生を対象に、グローバル人材育成のための4つの事業を展開。

- ①国際塾（年間11回の講座・今年度塾生53名）
- ②高校生懸賞論文（今年のテーマ：『私にもできるSDGs』）
- ③グローバルゼミ（今年のテーマ：自分らしい社会参加を～よりよい社会をつくるためにできること～）
- ④ESDカフェURA 2019

事業の目標

こどもたちに国際感覚を身につけてもらおうと、1995年に立ち上げた団体。2004年からは中高校生を対象に国際塾を年11回開き、海外勤務の経験者や有識者ら外部講師などを招き、対話形式のアクティブラーニング（能動的な学習）を重視した内容としている。卒業生はすでにおよそ350人。「学校では教えないこと、教わらないこと」に焦点を当て、テーマに取り上げている。海外では日本人としてのアイデンティティも問われる。自国の歴史や文化を知らなければ、相手にされないこともある。だからこそ、塾では他国と自国について学ぶ割合を半々にしている。（今年のラインアップをご覧ください）

実施体制

会長 浜家弘巳
理事 16名
監事 2名
運営委員 23名
アドバイザー 10名
顧問 13名
*毎月1回運営委員会を開き、活発な活動を推進している。



URL: <http://www.interkids-okayama.com/>

国際塾2019 講座ラインアップ

☆国際塾の講義録はYouTubeにアップしています ⇒ ⇒ ⇒

 2019/6/9 国際塾第1回 （入塾式・塾長講座・パーティー） 浜家弘巳 塾長（インターキッズ会長） 現役大学生で2016年卒業・陳蓮ハンフ君と、2017年卒業・岡本莉奈さんから後輩へのプレゼンテーション。	 2019/8/25 第5回 国際塾 沖 陽子理事長兼学長 （岡山県立大学） 『実践型環境教育から学ぶ楽しみ』 児島湖灌漑事業と水質浄化への挑戦	 2019/9/22 第9回 国際塾 道上知弘（岡山ビジネス学院講師） 『日本からみた「仏教学」の世界 ～信仰から研究へ～』 （ノートルダム清心女子大）
 2019/6/16 第2回 国際塾 滝沢忠孝（RSKラジオパーソナリティー） 『プレゼンテーション・人に伝わる話し方』 （ノートルダム清心女子大学）	 2018/9/1 国際塾第6回 植野哲也学芸員（林原美術館） 『備前刀とは？エヴァンゲリオンにみる 日本伝統文化の極みと楽しみ方』 （林原美術館）	 2019/10/13 第10回 国際塾 神崎宣武 先生（民俗学者・美星町 宇佐八幡宮宮司） 『吉備の歴史と伝統文化』 （ノートルダム清心女子大学）
 2019/7/14 第3回 国際塾 太田 昇（真庭市長） 『SDGs未来都市・真庭市の挑戦』 全米CLSプログラム学生との交流 （真庭市・勝山地区・銘建工業など）	 2019/9/8 第7回 国際塾 石川康晴社長 （㈱ストライプインターナショナル） 『未来をつくる～岡山県の高校生に、 いま伝えたいこと～』	 2019/10/20 第11回 国際塾 浜家弘巳塾長 『世界に目を広げ、 そこから日本を知ろう』 （ノートルダム清心女子大学）
 2019/7/21 第4回 国際塾 小川正人教授（環太平洋大学次世代 教育学部国際教育学科長） 『海外で人生を変える』 （岡山市立オリエント美術館）	 2019/9/15 第8回 国際塾 伊原木隆太（岡山県知事） 『未来をつくる～岡山県の高校生 に、いま伝えたいこと～』 （ノートルダム清心女子大）	

その他の活動と今後の展望

- ★高校生懸賞論文2018入賞者（2019年は審査中）
- 【最優秀賞】 田中茉莉子 金光学園高校2年「私にできるSDGs」
 - 【優秀賞】 小幡 緋音 学芸館高校3年「SDGsと私」
 - 【優秀賞】 飯山 葉生 岡山南高校2年「身近なSDGs（え、SDGsってなに）」
 - 【奨励賞】 金子明日香 岡山城東高校3年「私たちの明るい未来をつくるSDGs」
 - 【奨励賞】 林 歩美 岡山南高校2年「変化への小さな一歩」
 - 【奨励賞】 東村ちはる 瀬戸高校2年「SDGsと私」
 - 【学校賞】 岡山南高校（多数かつ質の高い論文応募について）



- ★グローバルゼミ2018 2018/10/21
 テーマ：『今、ボランティアを考える』
- ①なぜボランティアが必要なのか
～ボランティアの本当の価値とは？
 - ②ボランティアの悪い点は？
 - ③高校生の私たちにできるボランティアは？



★ESDカフェURA 2018/12/23
 ESDを推進するために県下の高校生に呼びかけて、自分たちの実践した内容を日本語あるいは英語で発表した。昨年は高校15校、中学校1校。生徒数82名が参加した。2019年も継続

問合せ先 こくさいこどもフォーラム岡山 事務局

住所：岡山市北区舟橋町2-10岡山外語学院内

E-mail：okayama.interkids@gmail.com

電話番号：086-206-3355

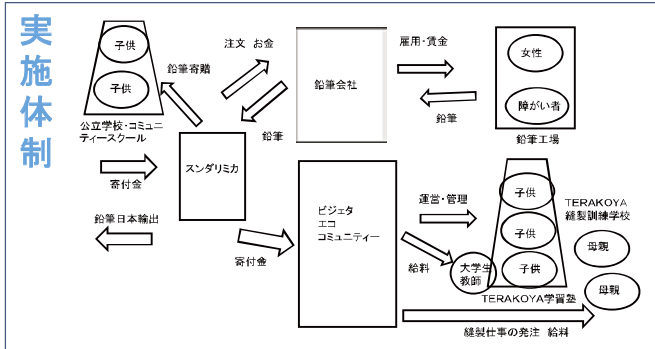
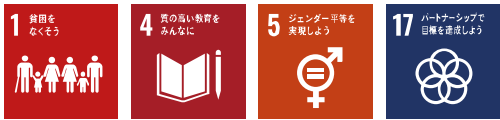
URL：<http://www.interkids-okayama.com>

事業名 TERAKOYA Project
 (岡山とネパールを繋ぐ環境問題啓発・学習支援・女性の収入向上のためのプロジェクト)

団体名 ダフェプロジェクト

地域の特徴・課題
 ネパール(カトマンズ・スンドリジャル)には親の低学歴及び経済状態により補習機会のない子供が多数おり、学びの場の提供が必要であった。

事業の目標
 親の低学歴及び経済状態により補習機会のない子どもたちに補習の機会を与えること。



実施方法
 TERAKOYA学習塾(地域密着型無償学習塾)とTERAKOYA縁筆プロジェクト(再生新聞紙鉛筆のネパールでの無料配布・日本での販売及び製作ワークショップ)、TERAKOYA縫製訓練学校(2016年9月開校、TERAKOYA学習塾に通う児童の母親に縫製技術を習得してもらい自立を促す)をあわせて事業展開。
 当初は縁筆プロジェクトを通じての寄付金と売り上げで学習塾を運営し、貧困家庭の子供の基礎学力の向上を目指していたが、現在は日本とネパールの多文化共生プロジェクトに変化。学習塾は2017年10月以降、地元民による自主運営に。縁筆プロジェクトはTERAKOYA学習塾の成績優秀者を奨学生として援助している。



今後の展望
 継続的な運営のために、寄付金にたよらない運営方法を考え、リサイクル鉛筆(縁筆)の販売や日本での鉛筆づくりワークショップなどを展開したところ、国際理解の学習のきっかけになるだけでなく、古新聞を使うことから環境問題を考える学習のアイテムとしても認知されるようになった。また学習塾の講師は地元の現役大学生に担当してもらうことで、彼らにとっても地域への社会的貢献、及び自身の奨学につながるシステムになっている。持続可能な学習塾になるために2017年10月以降は地元の人による地元の学習塾になるよう導いた。



成功の鍵

ネパール側の成功の鍵:
 現地の切実なニーズに応える事業であったということ。
 カウンターパート団体に日本からの資金だけに頼らない独自の資金調達方法があったこと。
 現地担当者の並々ならぬ本事業への思い入れがあったこと。

日本側の成功の鍵:
 従来の募金方法ではなく、新聞紙鉛筆づくりワークショップを通じての呼びかけがESDであったこと。学校学習の機会ではなく、放課後補習の機会を作るという事業目的が、現代日本が抱えている貧困家庭の子どもたちの教育格差問題との類似性を感じさせ、幅広い世代の共感を得ることができたこと。
 また、不要学用品の回収という子どもたちにも参加しやすいリサイクル運動が途上国支援につながる仕組みができたこと。

問合せ先
 住所:岡山市北区下石井2-9-67-1F E-mail:admin@danfeoproject.com 電話番号:080-4267-4789

事業名 瀬戸内海の海洋ごみ問題の解決に向けての
女子中高生の挑戦



団体名 山陽女子中学校・高等学校 地歴部

地域の特徴・課題
瀬戸内国際芸術祭が開催され、国内外から多くのお客様が芸術を楽しまれる瀬戸内海は閉鎖性海域であり、沿岸域から多くの生活ごみが流れ込み、深刻な海洋ごみ問題となっている。海洋ごみ問題のうち、海底ごみと島嶼部の漂着ごみは認知度が低く、回収が極めて困難であり、決まった回収者が不在であるなど社会的・自然的に解決が難しい環境問題である。



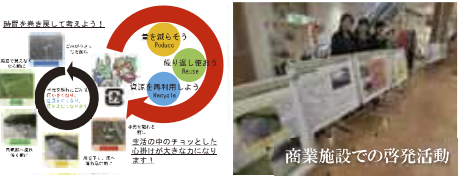
事業の目標
SDGsの視点を取り入れ、地域の特徴や差を理解し、廃棄者の責任ある行動を促し、学びの場から相互理解と共通認識を深め、生物多様性の保全と持続可能な社会の実現に向け、地域のステークホルダーとの協働により、海洋ごみ問題の解決を図る。



実施方法
海底ごみの回収は漁船から底曳き網を入れ、引き上げている。島嶼部の漂着ごみは漁船で海岸へ渡り、大量に堆積するごみを回収する。どちらのごみも回収が困難なごみであり、見逃されているごみであり、自覚を持って取り組んでいる。また、これらのごみを回収した私たちだからこそ、海洋ごみの現状を知らせ、ごみの廃棄量の抑制を図る責任があると考え、多様な視点から啓発活動に取り組む。情報発信に長けるメディア、問題提起と議論ができる国際会議や学会、未来を担う子供たちなどの学びの場である体験学習の開催、公共施設や商業施設での展示会・出前授業などである。啓発活動に向けて、ごみの廃棄地や廃棄日時の特定など「見える化」したり、MP(マイクロプラスチック)の調査をするなどより心に届く内容にこだわっている。6月にはG20大阪サミットにて世界へ向けて活動報告を行った。



今後の展望
現在の活動の継続と共に、街ごみ回収や河川ごみ回収など、人の手元に近い段階での取り組みをしたい。さらに、経済・社会・医療・保健など関連する異なる分野と一緒に問題を考えていきたい。



成功の鍵
12年間継続して活動に取り組み、異なる視点からアプローチできている。さらに、SDGsの視点を取り入れることで、進捗状況や課題などが明確となった。

問合せ先
住所:岡山市中区門田屋敷2-2-16
E-mail:takashi_size_5538@yahoo.co.jp
電話番号:086-272-1181

事業名 アフリカと日本をわくわくで繋ぐ
アップサイクル商品フェアトレード事業

団体名 jam tun - ジャムタン



地域の特徴・課題

【セネガル共和国・シンチューマレム村】
現金収入に限られ、貧困家庭が多い。
ゴミが散乱し、健康被害や貧困問題へ繋がっている。



事業の目標

支援や援助に頼らず、住民主体でゴミ問題解決のための行動を起こし、課題を解決すること。また、ゴミ問題に取り組みながら収入の向上活動にも取り組み、貧困の連鎖から脱却する糸口を提示する。
また、フェアトレードで日本とつながり、作り手と使い手が身近に感じられる関係性を作ることで、消費行動の変化を促したり、エシカルを推奨する。一時的で一方的な支援方法ではない、持続性のある対等なつながりでの国際協力を提案する。

実施体制

セネガル：制作
日本：販売、講演活動、
廃材利用の
ワークショップの実施



実施方法



作り手が働きがい、誇りを感じながら生産できる体制づくり。



カラフルで魅力的な商品で気軽に国際協力へ関わりを促す。

今後の展望

活動に加わりたいという若者が村に増えてきたため、彼らを雇用するために生産体制を整える。作り手と使い手が更にお互いを身近に感じられるよう、生産現場からの情報発信と、買い手からの感想や写真の送付、といったつながりのしくみをつくる。
シンチューマレム村の事例を他地域、さらには他国へと普及させていく。それぞれの地域で貧困解決に取り組みながらエシカルな商品を生み出し、そして買い手は他にはない商品を手にとることができ、さらに国際協力に自然と関わることができるという循環を作り出していきたい。また、各国、各地域の素材と、日本の素材や職人技を掛け合わせたコラボレーション商品の開発にも取り組んでいきたい。

成功の鍵

活動の中心となる仕立屋のみでなく、住民全体を巻き込み、それぞれに当事者意識を持ってもらうこと。
危機感からの取り組みではなく、「自分でもできるかも」「楽しそう」といったポジティブな感情に訴えかけていくこと。

問合せ先

住所：岡山県小田郡矢掛町
E-mail: tagatomoko@gmail.com
電話番号：090-7897-1510(代表:田賀携帯)



事業名 まちなかのふるさと教育

団体名 岡山市立岡山後楽館高等学校

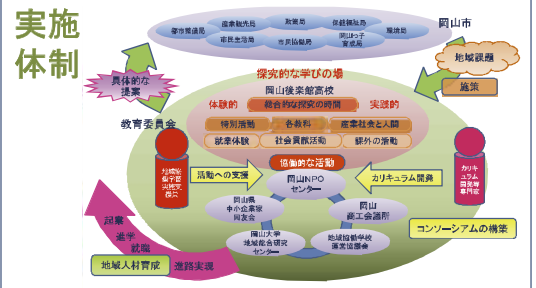


地域の特徴・課題

本校は岡山市中心部に位置している。近くには、西川緑道公園や地域のコミュニティハウスがある。また、学校周辺にある岡山市役所や各種施設、大学、企業などと連携した活動がしやすい。
 課題1. 西川や周辺の清掃活動を通して、ゴミの多さ感じたため、西川の環境保全活動を行う。
 課題2. 本校生徒と地域の方との交流が少ないため、人と人とのつながりを作る場を提供する。
 課題3. 岡山県はヒノキの生産量が1位であり、木工作品を製作し寄贈することで良さを伝える。

事業の目標

- 目標1. 西川緑道公園周辺の環境保全と地域活性化
- 目標2. 地域の多様な人々とのコミュニティの形成
- 目標3. 県産ヒノキ材の利用促進と間伐材の有効利用
- 目標4. 持続可能な社会の形成者となる生徒の育成



実施方法

西川水族館

岡山市内のイベント(歩行者天国)で、西川で捕獲した魚やエビなどを水槽で展示し、生徒が手作りのいきもの図鑑を使って説明をした。
 毎回、子どもから大人まで多くの方に興味をもっていただいている。



らっかんランチ食堂

地域の方に、毎月1回食堂を開放して生徒と一緒に食事をして楽しんでいただき、学校と地域との交流を図る。ふだん一人で食事をされている方や、ゆっくり食事を楽しむことがない方に「特別なひととき」を提供している。
 地域の方にとっても、生徒にとっても楽しい時間になっている。



岡山県産材ふれあい事業

岡山県産木材を使ってベンチなどの木工作品を製作し、近隣の幼稚園・小学校や地域の施設などに提供している。
 利用する子どもたちや地域の方々にも木材と触れ合う機会を創出する取組となっている。



探究「岡山の未来」

1年生…岡山駅から近い立地を生かして、岡山市について学ぶ。
 2・3年生…岡山市に関する課題について課題研究を行う。



今後の展望

活動に主体的に参加する生徒が増えるよう、それぞれの取組の内容を定期的に見直す。特別な活動の種類を増やし、地域の方との交流の機会を広げる。



成功の鍵

学校という場を拠点とした事業のため、市役所をはじめとした施設や地域との連携がとりやすく、事業も継続して実施可能である。

問い合わせ先

住所: 岡山市北区南方1丁目3番15号
 E-mail: korak001@city-okayama.ed.jp
 電話番号: 086-226-7100

ESD岡山アワード2015-2019 報告書

編集年月／令和2年3月

発行・編集／岡山ESD推進協議会事務局

本誌掲載の記事・写真・図版などの無断転載・複製を禁じます。

